

ひと・まち・自然

トウまち Press (一財) 世田谷トラストまちづくり情報誌

SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

December 2015

Vol. 14



地

域

まちと学校が響き合う

学

校

連

携

学校が携わる 地域貢献活動の 現在と未来

特集

P6
「東京なのにローカル」な
学びの共同体へ
～世田谷の大きな可能性～
坂倉 杏介さん

P7
せたがや散歩日和 第14回
水と緑に浸り歴史をたどる
等々力・野毛逍遙

P10
未来を紡ぐ人
松田 妙子さん

左の「音声コード」に、本誌の概要を記録してあります。
専用の読み上げ装置を使用して、音声で内容を聞き取ることができます。



現在と未来 地域貢献活動の 学校が携わる



ON AIR

駒澤大学
経済学部 松本ゼミ
×
用賀商店街



世田谷総合高等学校
×
岡本静嘉堂緑地
バッタ広場



東京農業大学
×
桜丘すみれば自然庭園

地域住民や商店など
そこに暮らし、業を営む人たちの、
自然環境保全や地域振興の活動に、
その地域の学校が関わったらどうなるか。
すぐに具体的な成果の出る活動もあれば、
近い、あるいは遠い将来に、
なにか思いも寄らない、
成果をもたらす活動もあるだろう。

東京農業大学、世田谷総合高校、
そして駒澤大学の取り組みを通じて、
現在、学校が携わる地域への取り組みに
注目してみよう。
将来、彼らによるさらなる
地域貢献の可能性が、
見えてくるかもしれない。

自然環境保全活動を地域貢献へつなげる



東京農業大学 × 桜丘すみれば自然庭園

学生たちが庭園での活動に興味を持ったきっかけは、「子どもたちや地域住民たちとの交流」「公園管理の実践の体験」「公園設計を学ぶ上で利用者の声を聞けると思った」などさまざまだが、参加した結果「人と接したり説明したりすることが楽しかった」「子どもたちを始め、周囲の方たちに助けられていることがわかってきた。自分たちのイベントだからと力を入れるばかりでなく、力を抜いて臨むことも大事だと思った」など、人と向き合う点での成長を自覚している学生が多かった。

そして自分たちの将来についても、「故郷の公園管理の仕事に自分がここで学んだことが活かせると思った」「団地の植栽管理の仕事に携わる予定だが、住人の方々と交流を深めるイベントでここでの経験を活かしたい」「都市のまちづくりの研究に於いて、自治体や専門家だけでなく住民のみなさんの意見も重要だと実感した」など、都内の一地域における自然環境保全活動の経験が、広く社会につながって行くのだろうと期待させられる声が聞かれた。仕事や研究以外でも「地域を活性化



▲東京農業大学・学生企画イベント「木のお医者さんになろう!」

させるお祭りの企画をサポートしてみたい」「もっと都心の小さな公園での自然体験を促す活動に興味がある」など、庭園での活動を通じて地域への関わりや地域貢献への興味を深めたという声もあった。

「大学の内外を問わず、興味を持ってくれる人が少ない」という課題もあるが、それに対しては、学園祭《収穫祭》で桜丘すみれば自然庭園での活動をアピールする展示を行うなど、広報活動にも力を入れていく。収穫祭での展示が文化学術展優秀賞に選ばれるなど、着実に成果も上がっているようだ。

10月のある土曜日、小田急線千歳船橋駅から南西方向に1kmほど歩いたところにある世田谷区立桜丘すみれば自然庭園を訪れると、東京農業大学の学生たちが子どもたちと一緒に「木のお医者さん」として、園内の樹木の診断をしているところだった。

には当財団の前身である（財）世田谷区都市整備公社、（財）せたがやトラスト協会によって緑地生物調査が実施され、翌2000年から3年ほど、区、生態系や緑地管理の専門家、そして地域住民による公園化のための準備が行われた。

その経緯の中で、公園化を牽引したメンバーが主に公園管理の面から東京農業大学地域環境科学部造園科学科・金子忠一教授の指導を受けるようになった。その縁で金子教授率いる都

市緑地計画学研究室に所属する学生たちが、庭園の開園とほぼ同時期から運営に携わるようになった。

庭園と学生たちとの関わりは、庭園の自然生態系の保全や管理業務で、イベントの企画・運営に携わる運営団体「世田谷すみればネット」の協力によりすすめている。イベント開催時の受付や片付け、あるいは子どもたちの引率などのほか、開園時より年1〜2回、学生自身がイベントの企画・運営も行っている。

〈トラまちからひとこと〉
桜丘すみれば自然庭園の整備に当たり、平成12〜15年度に、区民参加の公園づくりとして当財団の前身の1つである（財）世田谷区都市整備公社が区から委託を受け、住民とのワークショップなどを経て公園づくりのプランを作成するなど、公園化への礎を築きました。

奉仕体験活動により地域貢献の種を撒く



世田谷総合高等学校 × 岡本静嘉堂緑地バッタ広場

東京都立世田谷総合高等学校は、旧都立砧工業高等学校と旧都立玉川高等学校を統合し2008年4月に開校した、まだ比較的若い学校だ。

自立性の育成を重視する独自の校風で知られるが、東京都教育委員会の『2007年度からすべての都立高校に、必修教科として奉仕体験活動を導入する』方針に基づき、二年生の総合選択科目・自由選択科目の中に、奉仕活動の基礎知識や理念、意義を体験的に学ぶ授業が用意されている点にも注目したい。

世田谷区の諸団体のさまざまな地域活動に生徒たちが参加し、団体側の運営スタッフによる指導のもと、社会貢献活動の実践を体験しつつ学ぶことができる。たとえば地域のお祭りでの接客体験や、災害ボランティア講座などの授業があるが、その中で今回、岡本静嘉堂緑地バッタ広場での奉仕体験を取材した。

財団職員と岡本緑地ボランティアの方々との熱心な指導のもと、約20名の生徒が広場の草刈り作業に従事する。指導の際には「なぜ草を刈るのか」という理由を、環境に於ける生物多様性の大切さの観点から生徒に説明

していた。つまり、なぜその作業をするのか、その背景や大切さを理解した上での奉仕活動が体験できるわけだ。参加して単位を取れば終わりという一過性の体験ではなく、履修後や学校を卒業した後に残る『何か』を授けられる機会と言えるだろう。

とはいえ生徒に話を聞いてみたところ、直前に同じ場所で見虫の種類調査の体験授業を受けたとあって「生態系などを勉強するきっかけとして、すごく楽しい」「整った環境で大人数で、普段できない作業を体験できるのがうれしい」という感想は聞かれたものの、卒業後もこうした地域貢献活動に携わってみたいかと聞くと、「まだわからない」という答が多かった。恐らくその渦中にある間は「あとに残る何か」を実感できないというところかもしれない。

今回、当財団のまちを元気にする拠点「せたがや水辺の楽校はらっぱ」などで子どもと関わるボランティアに携わる卒業生にも話を聞いた。奉仕の授業の講師であったNPO法人せたがや水辺デザインネットワークの中西氏との出会い・交流がきっかけとなり、ボランティア活動に興味を持つようになった。



▲卒業生の中原祐祐さん。現在は専門学校で幼児教育を学んでいる。

〈トラまちからひとこと〉
当財団は岡本静嘉堂緑地バッタ広場をはじめ、自然体験や環境保全を目的とした公園緑地の保全・運営を担っています。各緑地では区民ボランティアと協働で運営をすすめ、小学校の総合学習の場として、また企業のCSR（社会貢献活動）の受け入れ等に有効活用しています。

学生による

地域振興の試み

松本典子准教授が率いるゼミ『用賀部』の地域貢献活動は、用賀商店街の商業的な振興活動に、学生が主体的に関わっているという点が興味深い。

用賀商店街のキーパーソンのひとりに、杉本浩一氏がいる。杉本氏はもともと三軒茶屋を拠点に店舗運営や地域振興などに携わっていたが、その活動が注目され、用賀商店街にも乞われて携わるようになった。現在は商店街の出資で設立された用賀まちづくり株式会社代表を務め、



また用賀商店街振興組合の理事の職にも就いている。

一方松本ゼミでは、学生の希望を受けて地域活動の受け入れ先を模索していた折、あるイベントを通じて2008年に杉本氏と出会い、そこから松本ゼミと用賀商店街との協働の試み『用賀部』の活動が開始された。

用賀部の活動『ようが＊アワーズ』や『ようが便利堂』は、その協働のさまざまな試みの中から生まれ、現在も継続しているものだ。『ようが＊アワーズ（映像コンテンツ配信）』は、用賀商店街で買った食材を使った料理を紹介しつつ、用賀の旬の話題を地域へ提供するというもの。2011年に開始され、何度か休止したもの、今年の参加メンバーからまた更新が活発化。女性をターゲットにした新しい番組づくりを模索している。また「用賀商店街の個店で鍋料理

の材料がどれだけ揃うか」などの取材を通じ、商店街の様子を学生が知り、それを学生ならではの目線でアピールしていくような試みも考えているという。

地域伴走の『ようが便利堂』は、学生によるボランティアではなく、料金が発生する立派な経済事業だ。松本准教授と杉本氏が基礎を設計し、細部の構築と実践は学生が中心になって進められ、立ち上げて3年で、草刈りや壁紙はがしなど約60件の依頼案件を完了した実績を持つ。杉本氏は学生たちに「仕

事への取り組みは自分たち大人と対等の立場で考えてほしい」とふだんから促しているそうで、参加メンバーも「アルバイトとは異なり、自分たちが主体となって地域の方と会話し関わりを深めていく喜びがある」「自分たちの広報活動が実を結んだ実感がある」と手応えを感じているという。同じゼミの仲間同士で自発的に予定などを融通し合っているの、学校生活と便利堂の仕事との間の葛藤などもあまり感じていないそうだ。

また『ようが便利堂』では、



前列左が杉本氏、中央が松本准教授 用賀商店街振興組合事務所2階にて

専門性を求められる依頼を受けた場合、用賀商店街の個店など専門店に協力を仰ぐという。これまでに廃品処理や家具の耐震補強などを商店街のプロの力を借りて解決した実績があるが、地域住民と商店街とをつなげる役割を、地域の学生が果たしているという点は面白い。

学生たちの活動は、いずれも短期的には成果を上げているが、商店街振興の一端を担う事業としての継続性の維持など、学生主体ならではの課題もある。松本准教授は「今までの実績に何かを加える形で継続するのが重要」と考え、そのための方策を講じていくという。

大学と商店街との長期的なスパンと、学生と商店街との短期的なスパンがどう響き合い、今後どういう成果を生んで行くのか、興味は尽きない。

〈トラまちからひとこと〉

松本ゼミ『用賀部』が2010年に作成した新聞「LIVE＊LOVE＊YOGA」が、当財団の第18回公益信託世田谷まちづくりファンド「はじめの一步部門」で助成を受けました。これが用賀部と用賀商店街が深く関わるきっかけのひとつになりました。

「東京なのにローカル」な学びの共同体へ

～世田谷の大きな可能性～

大学の地域貢献の取り組みが増えてきた。しかし、いくら大学が努力しても、地域が学生の学びの場として魅力的でなければ継続は難しいし、学生の成長だけを目的にしている、地域が実際に良くなるとは考えにくい。継続性と成果は、まだまだ大学地域連携の大きな課題である。

大学と地域の有益な連携方法を考える上で参考になる概念に、「サービスラーニング」がある。サービスとは、コミュニティサービスのことで、すなわち「地域活動」を指す。ラーニングは学習であるから、サービスラーニングとは、つまり「地域活動×学び」である。もともと体験学習の考え方をベースに、個人主義化が進行した1980年代のアメリカで生まれた教育で、地域活動への参加を通じて市民としての社会への関わりと学校の教科への理解とともに促進しようとするプログラムである。初等教育から高校・大学まで、多くの学校で取り入れられている。

サービスラーニングといっても、地域と大学の関わりは一樣ではなく、地域活動により力点が置かれる場合、たとえば地域課題を解決するために教員や学生がコンサルとして参加したり、お祭りの運営のために学生が動員されたりするような場合もあれば、逆に、主に学生が調査技法を身につけるための実習Ⅱ学びとして地域参加することもある。しかし理想は、地域活動か学びかのどちらか

に重きが置かれるのではなく、それらの両立であるといわれている。地域活動を実践するなかで、学生も地域住民も、実践家も研究者も、ともに実践し、ともに学び合う、いわば学びの共同体となつて地域に参加することが、サービスラーニングの真髄だ。どちらかが一方的に協力を求めたり教わったりするのはなく、立場を超えて実践する経験から、それぞれが学びを得て、しかも結果的に地域が良くなっていく。ここに、これからの地域連携の進め方のヒントがあるといえないだろうか。

世田谷は、こうした学びの共同体の可能性に満ちている。多くの大学があり、活発な市民活動の土壌がある。そして私は次の点が一番重要だと思うのだが、世田谷は「東京なのに、ローカルな地域」でもある。

経済成長や人口増加の望めない「定常化社会」において、大学の置かれた状況はかつてほど明確ではない。かつての大学はエリートの養成機関であり、その後は長らく、農村から都市へ、あるいはブルーカラーからホワイトカラーへ、地域や階層の移動のキャリアパスとして機能していた。地方から都会へ、さらには都会から世界へ、よりよい職と地位へ「キャリアアップ」するステップとして、学生は東京に集まっていたのである。ところが、いまや大学を出るだけでは、優位な職につける保証はどこにもない。

そして、子どもを東京まで送り出す余裕のある家庭は減っている。東京の大学の存在意義は、じつは曖昧なのである。

だが、世田谷の学生は、東京なのにローカルな実践の学びの共同体に日常的に触れられる。同時に、東京だからこそその広いネットワークも得ることができる。全国から若者が集まり、学生として地域と関わりながら学び、やがて彼／彼女らが日本中に散らばって各地をより立てていく。こんなことが、世田谷ならすぐに実現しそうである。地域は各地からの若いエネルギーとアイデアをもらい、そこで得られたネットワークは、持続的なオープンイノベーションの土壌になるだろう。未来の全国の地域づくり人材が、実践的に学ぶ場としての世田谷地域キャンパス。今回紹介されている事例に触れて、そんなイメージがくつきりとみえてきた。



坂倉杏介（さくら きょうすけ）
東京都市大学都市生活学部 准教授
1972年生まれ、世田谷区出身。
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。多様な主体の相互作用によってつながりと活動が生まれる「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、地域や組織のコミュニティ形成手法を実践的に研究している。

東京都市大学都市生活学部 准教授
坂倉 杏介

水と緑に浸り 歴史をたどる 等々力・野毛逍遙

等々力駅～等々力溪谷～
二子玉川公園～五島美術館
～上野毛駅

住宅地や幹線道路に隣接しながら、23区内唯一の溪谷や大規模な古墳が残る、そうかと思えば農地や農産物の直売所も点在する「等々力」「野毛」「上野毛」の一带。変化に富んだ風景を楽しみながら、水辺や坂道を歩いてみた。

住宅街の中の古墳と農地

～日本庭園から丸子川へ～



(上) 等々力溪谷日本庭園と書院
(中) 多摩川と国分寺崖線の間を流れる丸子川
(下) 野毛大塚古墳では、さまざまな副葬品が出土している。



駅のすぐそばにある溪谷

～等々力駅から等々力不動尊へ～

等々力駅の改札を出て、商店街を南へ進むと大きなケヤキの木が見えてくる。その角を右に曲がると急に緑と水の気配が濃くなった。ゴルフ橋のたもとにある階段を降りると、谷沢川の流れに沿って高さ10メートルほどの崖が続き、木々がうっそうと茂る。

ここは都指定の名勝、等々力溪谷。「せたがや百景」にも選定されている、谷沢川が武蔵野台地を削って形成された東京二十三区内唯一の溪谷である。川沿いに設けられた遊歩道を下流に向かってしばらく歩き、玉沢橋をくぐると、左岸は公園になっている。その園路を進むと「等々力溪谷3号横穴」の案内板。7～8世紀ごろの横穴墓群のひとつが完全な形で残り、都

指定の史跡として保存・公開されているのだ。副葬品が豊富に出土したことから、近隣の有力者が埋葬されたと考えられている。

遊歩道に戻り、さらに歩くと稚児大師堂。その先の「利剣の橋」を渡ると、不動の滝と地藏堂がある。一説によると「等々力」の地名は、この滝の音が周囲にとどろいていたことが由来とか。今は小さな滝だが、当時はそれほど勢いだったのだろうか。滝の横の石段を登ると、桜と紅葉の名所としても知られている等々力不動尊の本堂に出る。つい先ほどの駅前の賑わいが嘘のような静けさに包まれて、お参りがてら一息ついた。



(上) 等々力溪谷3号横穴
(中) 稚児大師堂
(下) 不動の滝と地藏堂

■等々力溪谷
立川市から大田区まで続く国分寺崖線の最南部にある、全長約1000メートルの溪谷。溪谷の斜面にはケヤキやムクノキなどの落葉広葉樹林が形成されている。ゴルフ橋周辺の右岸には地層がむき出しになっている場所が数か所あり、そこから湧水がしみだしている様子を見ることが出来る。

【川の清流化プロジェクト】
世田谷区は、魚やホタルなどが生息できる生態系の回復を目指して等々力溪谷の水質改善に取り組むプロジェクトを発足した。環境分野の研究に強い東京都市大学と連携し、東京五輪開催の2020年の整備完成を目指している。

■等々力不動尊
溪谷の斜面の上に位置する等々力不動尊は、平安末期創設と伝えられる。元旦の初護摩、節分会豆まき式、花まつりなど、一年を通じてさまざまな行事が開催される。



等々力不動尊の本堂

毛大塚古墳だ。ただの丘のように見えるが、全長82メートルにおよぶ帆立貝型古墳である。尾山台から上野毛にかけて点在する野毛古墳群のひとつで、関東最大規模。副葬品が大量に出土したこと、5世紀初頭(約1600年前)建造の南武蔵地

域の首長の墓と考えられている。公園を出て急坂を歩く。この一帯は立川市から大田区へ続く国分寺崖線の一部で、南西側が多摩川に向かって下る急斜面になっている。

この周辺から田園調布にかけての高台では、野毛大塚古墳以

外にも多くの古墳が見つかっている。仏教伝来前の自然崇拜の時代、多摩川と富士山を見渡すこの地は特別な場所だったのではないだろうか。坂の上から多摩川を見ながらそんなふうに想像すると、古代と現代が直接繋がったような思いに促される。

字通り時が経つのを忘れそう。庭園の隣の芝生広場を抜けると住宅街に出る。緑豊かな溪谷が、こんなに人々の暮らしの近くにあることに感嘆。世田谷という土地の懐深さを感じる。

さらに5分ほど歩くと玉川野毛町公園だ。テニスコートや野球場などがあるが、中でも目を引くのが都指定の史跡である野



■楽ちん堂カフェ
財団の活動拠点である「まちを元気にする拠点」のひとつ。アットホームな雰囲気が地元で愛されている。広い店内ではお茶や食事を楽しめるほか、たぐさんの本やおもちゃ、ピアノが置かれ、演劇ワークショップも定期的に行われている。

■いいおかさんであ・そ・ぼ
財団活動拠点「地域共生のいえ」。元保育園園長だった家主が、地域のさまざまな世代が集う場所として自宅の一部を開放。料理や工作など大人と子供が一緒に楽しめるイベントを開催している。

■東京都公文書館
歴史的価値の高い公文書などを都民共通の財産として後世に伝えるため収集・保存する施設。閲覧もでき、企画展なども開催している。

玉川1-20-1
03-3707-2601
●開館時間…午前9時～午後5時
●休館日…土・日曜日、国民の祝日及び振替休日・年末年始及び年度末最終の平日・毎月第3水曜日(祝日の場合は翌日)・臨時休館日・夏期整備期間

直売所に並ぶ野菜はみずみずしくおいしそう。近くの畑で採れたものだろう。まだしばらく

富士山が見える公園、橋 〜明神池跡から上野毛駅へ〜



歩くのに荷物を増やしてしまうなあ、と思いながらつい購入してしまうのだ。

さらに歩を進めると、住宅街に畑や無人の農産物直売所が点在している。これは世田谷の原風景といえるかもしれない。宅地化が進んだ世田谷だが、今なお約100haもの農地が残っており、350戸の農家がJA東京中央・JA世田谷目黒とともに世田谷の農業を守っている。その8割以上が50a未満の小規模経営ゆえに、多品目を少量生産し、個人の直売所やJAの共同直売所などで販売する「地産地消」が主流なのである。

坂を下って丸子川を渡る。この少し下流には善養寺がある。境内のカヤの木は樹齢700年を越えるとされる都の天然記念物。今も隔年でたわわな実を結ぶらしい。ぜひ、そのころに訪れてみたいものだ。

丸子川から多摩川寄りの細道に入ると小さな祠があった。大正時代に多摩川に堤防が築かれたとき、川の蛇行した箇所が残され、「明神池」となったそうだ。しかしその後の宅地開発で埋め立てられ、昭和50年に池の跡に建てられたのがこの祠だという。

祠のある道を抜けると、平成25年に開園した三子玉川公園はすぐそこ。園内には、子どもの遊び場や、多摩川沿いの自然を表現した日本庭園・帰真園、明治時代の書院造を移築復元した世田谷区有形文化財の旧清水家住宅書院などがある。高台にある広場からは、空気が澄んだ日には富士山が見える。眺望の広がり爽快で、子どもたちがのびのびと駆け回ることができる気持ちのよい公園だった。多摩川を背にして、再び丸子川を渡る。上野毛駅に続く上り坂の途中に、上野毛自然公園の入り口がある。ここも木々が生い茂り、周辺よりも空気が清々しく感じられる。公園横の坂をさらに登り、左折してしばらく歩



日本庭園・帰真園（左上は旧清水家住宅書院）

くと平安時代を思わせる建物が現れた。五島美術館だ。約六千坪の広大な敷地内には、武蔵野の自然林の姿をとどめる庭園があるという。興味をそそられ入ってみることにした。傾斜地に築かれた庭園は、紅葉の色づきが始まったばかり。そこかしこで椿も咲いている。葉ずれの音、鳥のさえずり、そしてどんぐりが木から落ちる音が聞こえるほどの静寂だった。

五島美術館に立ち寄った後は、東急大井町線にかかる富士見橋へ。その名の通り絶好の富士見スポットで、眺望スペースを確保するために橋の中段の幅を少し広げてある。ここに立つと、晴れた日は線路の向こうに富士山

■五島美術館
日本と東洋の古美術品を展示する私立美術館。「源氏物語絵巻」をはじめとする5件の国宝のほか、50件の重要文化財などを所蔵する。

平安時代の代表的な建築様式である寝殿造の意匠を随所に取り入れた本館の先には広大な庭園があり、都指定天然記念物である推定樹齢250年の「上野毛のコブシ」をはじめ、見事な紅葉やツツジなど季節ごとの風景を楽しめる。園内には茶室（非公開）や散策路に沿って石仏や石灯籠などが設けられているので、これらを見て回るのも楽しい。

庭園の入園料は300円。
上野毛31925
03157718600

◆開館時間…午前10時〜午後5時（受付は午後4時30分まで）
◆休館日…月曜日（祝日の場合は翌平日）、展示替期間、年末年始、夏期整備期間



（左）大井町線にかかる富士見橋からの眺め（上中）明神池跡（龍神様の祠）（上右）生産緑地（右下）上野毛自然公園

人と人、人と地域をつなぎ、今という時代を未来へとつなげる「未来を紡ぐ人」。



代表理事

松田 妙子さん

いつでも好きな時間に親子で過ごせて、子育ての情報交換などができる親子のつどいの場「おでかけひろば（世田谷区地域子育て支援拠点事業）」の運営など、子育て中の親子と地域で活動するさまざまなグループをつないで子育て支援活動を行っているNPO法人せたがや子育てネット。代表理事の松田妙子さんにお話を伺いに『おでかけひろばぶりっじ@roka』を訪ねました。

緑が多く静かで落ち着いたまち並みを見せるのは、荻花公園駅の南口側のエリア。この一帯は2008年に再開発が行われ、公団住宅が新しく生まれ変わった場所。住宅棟の一角に設けられているのが、コミュニティスペース『おでかけひろばぶりっじ@roka』だ。ぶりっじは2010年、NPO法人せたがや子育てネットと独立行政法人都市再生機構（UR）の協働事業としてスタートし、現在は、「おでかけひろば」として運営を行っている。

駅を出て向かう先はUR荻花公園団地内の公園。途中でちらほら見かけたのは、ハロウィンの仮装をした親子連れだ。魔女のようなどんがり帽子をかぶったり、カボチャ色の洋服を着たり、それぞれに楽しんでいるようです。公園に着くと東屋やベンチに親子がたくさん集まっている。今日はおでかけひろばでハロウィンイベントが開催されているのだ。「もし、よかつたらハロウィンに参加しませんか？」明るく元気な声が聞こえてきた。この声の主こそ松田妙子さんだ。ひろばのようすをチラッと見ながらも素通りする親子を見つけては、駆け寄って声をかける。ひろばが気になっているのに参加のきっかけがつかめない人には、なるべくこちらからアプローチをするようにしているそうだ。

松田さんの子育て支援の活動は、ご自身の子育て期にスタートした。松田さんは東京の生まれだが、結婚してご主人の転勤先の見知らぬ土地で出産、子育てをするこ

とになった。このときに地域の情報や子育て支援の必要を感じ、子育てに関する情報誌制作を行ったのが最初の活動だそうだ。

再び東京に戻ってからは、産前・産後の支援と居場所づくりの活動を始め、2006年には当財団が設置した「世田谷まちづくりファンド」の助成を受けて活動費の一部として活用していただいたという。松田さんはその後、横の連携をつなぐネットワークの必要性を感じ、2004年に同じ思いを持つ皆さんと『NPO法人せたがや子育てネット』を立ち上げた。以降、世田谷区を起点としてさまざまな子育て支援活動に取り組んでいる。

「おでかけひろば」という居場所

ひろばに参加する人はお客さんではなく、自分で居場所をつくる人になってほしいと松田さんは考えている。例えば暑い日に「水遊びはいつからですか？」と聞かれると「始めるといい日だね。じゃあ、やっちゃおう！」と促す。「許可がないとできない場所は自分の場所じゃない」と感じているそうだ。

お母さんたちは、今はひろばが居場所でもある時期が来ると参加しなくなり、次の場所に移ったり自立していくのだという。「ひろばで友だちをつくって一緒に卒業する人もいるし、次の新しい場所が見つければそれでいいんです。その人にとってどんな場所が合っているのかを一緒に探すことも、この役割のひとつかもしれませんね」と松田さん。また、残念なことに地域のなかには子ども

が見える。ここから上野毛駅へは、環八通りを渡ってすぐだ。

この地域には、溪谷や古墳といった「土地の記憶」が都市化の波に埋没することなく生活の側にある。水と緑に癒され、好奇心を刺激される散歩道だった。



松田さんは場の立ち上げなど、人と人をつなぐために動くのが得意であるように見えるが、ひろばの運営などは、一緒にやっているスタッフの方々にお任せしたいのだという。「私は落ち着きがないし、いろいろ気がつくところって言うので（笑）。ひろばは一人ひとりにじっくり寄り添っていただける人にお任せしたほうがいいと思います。『適材適所』ですね」

子育て中の方たちとじっくり関わっていくからこそ、新たな課題も見えてくるそうだ。そして松田さんは、それを解決するためにまた、動き出すのである。



▲ハロウィンの衣装に身を包んだ親子。これからお菓子をもらいに団地内をまわります。

ト ラ ま ち TOPICS

各課の活動のようすをご紹介します。



トラストまちづくり課 10/15(木)

世田谷造園協力会との連携事業第1弾として 「庭木の剪定と生垣・芝の管理」を開催しました

みどり溢れる世田谷のまちづくりを進めるため、区民等を対象にした園芸講習会を、年間を通して開催しています。この度世田谷造園協力会との連携事業第1弾として、同協力会員を講師に庭木の剪定方法等を実習も含めて学べる講習会を実施しました。講義の他、実際に園内に出ての実習指導も行われ、経験豊富なプロならではの視点や勘所を知ることができて好評でした。

住まいづくり課

区内建設関係者を対象に安全対策講習会を実施

5月12日(火)、区の施設の改修工事に携わる建設業者(電気工事関係)を対象に実務講習会を開催しました。(一財)関東電気保安協会東京南事業本部から講師を招き「電気設備工事(低圧)における安全対策」というテーマで講習を行い、延べ31名の参加がありました。参加者からは「見落としがちな事例などを再認識する機会となり、大変参考になりました」との感想をいただきました。



トラストまちづくり課

「小さな森」が4か所、新たに誕生しました

みどりを地域の宝として守り育てゆく想いを持った民有地を「小さな森」として登録し、年に数回オープンガーデンをしています。今年度9月と12月に、「羽根木二丁目」「喜多見七丁目」などの個人宅のお庭に加え、成城学園前の駅ビル「成城コルティ」や有料老人ホーム「グランド上野毛」の4つのお庭が新たに加わりました。登録地はこれで全14か所となりました。



▲成城コルティ小さな森-東側(雑木林の丘)

トラストまちづくり課

まちづくり支援に関する協定を3団体と締結しました

当財団は、それぞれが保有する専門性を連携して、区民のまちづくり活動への支援に活かすために、3団体と協定を締結しました。空き家等を活かした地域貢献の場づくりへの取り組みに活かされています。



▲一般社団法人 東京都建築士事務所協会 世田谷支部 (5/13)



▲公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会 世田谷区支部 (9/8)



▲公益社団法人 全日本不動産協会 東京都本部 世田谷支部 (11/9)



トラストまちづくり課 11/7(土)

猪股邸に遊ぶⅡ

近代数寄屋で聴く職人の技と箏・ヴァイオリンの調べ〜

応募総数
272名

NPO 法人木造建築文化総合センターとの共催で昨年より開催している「猪股邸に遊ぶ」。今回は、猪股邸を施工した(株)水澤工務店の方に「数寄屋師の技」についてお話しいただきました。また、第2部では箏とヴァイオリンアンサンブルによる「春の海」「秋の曲」等、5曲が演奏されました。参加者からは「とても楽しかった」「次の企画を楽しみにしています」との声を数多くいただきました。

トラストまちづくり課 10/31(土)

会員優待イベント 茶歌舞伎

今年度より始めた、市民緑地や財団施設を活用した会員優待イベント。荀掘り、野点、夜の生き物観察に続き、かつてお茶の産地であった大原にある柳澤の杜市民緑地で、南北朝時代から続くお茶の飲みあて遊びの茶歌舞伎を開催しました。

煎茶、玉露、釜炒茶を煎れる順番をかえて3回配り、色、匂い、味からどのお茶かを当て、合計点を競いました。秋のひと時、煎茶の楽しみ方を味わいました。



トラストまちづくり課 9/5(土)

「地域共生のいえ」を新たに開設しました ぬくぬくハウス

二子玉川駅から多摩川沿いに歩いていくと井戸とデッキのある緑豊かな家があります。子どもから高齢の方まで安心して過ごせる場所にしたというオーナーの想いで、18か所目の「地域共生のいえ」として開設しました。放課後の子どもの居場所「こども・ぬくぬく」、地域活動の実践を目指した大人の学びの場「おとな・ぬくぬく」、年齢に限らない多世代交流の場「まぜっこ・ぬくぬく」といった多様な居場所を地域の方々と育んでいます。



区営・区立住宅の居住者の皆さんの 「安心」と「支え合い」をサポートします。

区営・区立住宅の居住者の皆さんが日ごろから良好な関係を保ち、地域との交流を通じて、住み慣れた地域で安心して住み続けられる居住環境をつくるために、区や関係機関、ボランティア団体等と連携・協力しながら、さまざまなサポート事業を行っています。

安全・安心サポート事業

防災サポート

消防署などの関係機関と連携した防災・避難訓練、防災教室等の実施をサポートしています。

認知症サポーター養成講座

あんしんすこやかセンターと連携して住宅内の集会所等を利用し、認知症を正しく理解し地域で支えるための講座を行っています。

地域コミュニティサポート事業

フラワーサポート

住宅敷地内の一角に「花壇」等を造成し、花とみどりあふれる憩いの場づくりをサポートしています。園芸の指導にはフラワーランド花とみどりの専門員やトラストボランティア等の協力もいただいています。

地域交流サポート

住宅内の施設を利用して元気体操教室や絵手紙教室、絵本の読み聞かせ等をトラストボランティアやまちづくり団体の協力により行っています。居住者間や地域にお住まいの方々とのコミュニティの活性化をサポートしています。

八幡山慶明館 「いきいき・らくらく体操」



参加者の声

元気で明るい講師の先生に教えていただき、楽しく身体を動かすことができました。いきいき体操をまた開催していただければと思います。ほかに音楽会などのイベントがあれば参加したいですね。

玉川三丁目アパート 「自衛消防訓練」



参加者の声

消防署の方から直接指導を受けられる訓練を実施していただいて、ありがたいですね。日ごろ部屋に閉じこもりがちの高齢者も多いのですが、外に出て顔を合わせる機会にもなり、居住者同士のコミュニケーションにも役立っています。



2月

瀬田四丁目広場の ひな飾り展示

世田谷区有形文化財に指定される旧小坂家住宅で、七段のひな飾りとするし雛を展示します。

【時 間】午前9時30分～午後4時30分

【場 所】瀬田四丁目広場(瀬田4-41-21)

【申 込】不要 当日直接会場へ

地域共生のいえオープンデイ(要申込)2/15(月)

自宅を地域にひらいて、地域の絆を育んでいる2か所の活動現場での見学会です。当日は、オーナーのお話も伺います。

【対 象】自宅の一部等を地域にひらいて活用することに関心のある方

【時 間】①午前10時～12時

②午後2時～4時

【場 所】①えんがわぼっこの家(豪徳寺1)

②ぬくぬくハウス(玉川1)

【参加費】1か所につき300円

【申込締切】①②2月8日必着



成城五丁目猪股庭園の ひな飾り展示

京都の老舗人形店で昭和初期に製作された七段のひな飾りを展示します。

【時 間】午前9時30分～午後4時30分

【場 所】成城五丁目猪股庭園

(成城5-12-19)

【申 込】不要 当日直接会場へ



シンポジウム『成城の環境を見つめ直すⅡ』

成城自治会とともに進めている成城みどりのまちづくりに関する今年度の取り組みを報告するとともに、講演やワークショップ等を行います。

【対 象】どなたでも

【時 間】午後1時～3時30分

(開場は12時30分～)

【場 所】成城ホール(成城6-2-1)

【講 演】阿部伸太氏

(東京農業大学准教授)

【申 込】不要 当日直接会場へ

【定 員】200名



3月



『小さな森』

オープンガーデン

民有地のみどりの大切さを知ってもらうために、「小さな森」においてオープンガーデンを開催しています。

3/27(日) 成城三丁目小さな森

【時 間】午前10時～11時30分

【場 所】成城3-9-4

【申 込】不要 当日直接会場へ



3/27(日) 成城四丁目小さな森 (要申込)

【時 間】午前10時～11時30分

【場 所】当選された方に所在地を案内

【申込締切】3月17日(必着)

【定 員】抽選20名

3/30(水) グランダ上野毛小さな森 (要申込)

【時 間】午後1時30分～3時

【場 所】当選された方に所在地を案内

【申込締切】3月17日(必着)

【定 員】抽選20名

※いずれも雨天の場合は中止です

3軒からはじまる ガーデニング支援制度グループ募集

ご近所の皆さんで、花とみどりあふれる、美しい街並みづくりを始めませんか。近隣3軒以上で、誰もが景観を共有できるスペースで緑化活動を始めるグループに支援を行っています。

【支援内容】

①ガーデニングアドバイザーの派遣

②緑化資材購入費の一部助成

③区の緑化に関する助成制度への橋渡し

※制度について、詳しくはお問い合わせいただくか、財団ホームページをご覧ください。



お申込み方法

申込みが必要なイベントに参加ご希望の方は、電話・ハガキ・ファクシミリ(FAX)で①イベント名②参加者全員の住所・氏名・電話番号・年齢③代表者名④トラスト会員の方は、会員番号⑤FAXでお申し込みの方は、返信先番号を明記し、下記までお申し込みください。
※申込み多数の場合は、区内在住の方を優先させていただきます。

《お問合せ・お申込み先》

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課
〒155-0031世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
TEL 03-6407-3311/3313(平日午前8時30分～午後5時15分)
FAX 03-6407-3319 <http://www.setagayatm.or.jp/>

「読者アンケート」募集

情報誌をお読みいただきありがとうございます。

より魅力のある情報を発信するため、ぜひ、読者の皆様方のご意見やご感想をお聞かせください。アンケートに回答いただいた方から抽選で10名様に「世田谷区共通商品券1,000円分」をプレゼントいたします。



応募の方法

郵便はがき、またはFAXに

「住所、氏名、年齢、電話番号、職業」をご記入のうえ

①今号で面白かった記事

②今号で興味がわかなかった記事

③情報誌をどこで入手されましたか

④取り上げてほしいテーマ

⑤その他、ご意見、ご感想をお寄せください。

住 所
氏名・年齢
電話番号
職 業

アンケートの回答
①
②
③
④
⑤

応募先

〒155-0031 世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
一般財団法人世田谷トラストまちづくり「読者アンケート」係
☎03-6407-3319

※お送りいただいた個人情報やアンケート内容は、プレゼントの抽選・発送以外の目的では利用いたしません。

応募締切

平成28年1月31日(日)消印有効

※当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます

ご 寄 附 の お 礼

平成27年4月1日～9月30日までに、630,680円の寄附金(トラスト会費、一般寄附)を皆様方からいただきました。誠にありがとうございました。今後も引き続きご支援いただきたくお願い申し上げます。

●トラスト会員特典のご案内●

トラスト会員の方は、会員証をご提示いただくと会員特典がご利用いただけます。

■施設の割引入館

※展示内容など、詳細につきましては直接各施設にお問い合わせください。

世田谷美術館	世田谷区砧公園1-2 ☎03-3415-6011	世田谷文学館	世田谷区南烏山1-10-10 ☎03-5374-9111	静嘉堂文庫美術館	世田谷区岡本2-23-1 ☎03-3700-0007
--------	-----------------------------	--------	---------------------------------	----------	-------------------------------

■花苗等の割引購入

※店舗によっては、割引対象除外品がある場合があります。

名 称	割 引	所在地・電話番号・営業時間等	名 称	割 引	所在地・電話番号・営業時間等
さかえ園芸	観葉植物・花鉢・苗など 10%引き	世田谷区三軒茶屋1-33-15 ☎03-3421-6462 午前10時30分～午後8時 不定休	山野草園 やまあい	山野草 (ビニールポット・プラ鉢・化粧鉢) 10%引き	世田谷区桜丘4-27-1 ☎03-6413-9179 午前9時30分～午後5時 定休日：火曜・水曜・木曜
世田谷ファーム	花苗(生產品のみ) 10%引き	世田谷区中町4-32-1 ☎03-5706-1824 午前10時～午後5時 不定休	東苑緑化(株) 砧園芸センター	草花・植木を 1,000円以上 お買い上げで 10%引き	世田谷区喜多見5-26-22 ☎03-3417-4641 平日 午前10時～午後5時 土日 午前9時～午後5時 定休日：月曜・お盆・正月
柳 育種花園	500円以上 お買い上げで 20%引き	小平市大沼町5-9-8 ☎042-342-1976 午前10時～午後5時 不定休			

トラスト会員案内パンフレットをお送りします



下記のQRコードメールアドレス(モリモリ)あてに、「パンフレット希望、郵便番号、住所、氏名」を記入して送信してください。
「ヤモリのモリモリ」缶バッジもプレゼント。
電話、FAXでも受付中です。



☎03-6407-3300

☎03-6407-3319

✉morimori@setagayatm.or.jp



ご存知ですか？

世田谷に残るみどりと水の憩いの場

特別保護区

世田谷区では、樹林地や水辺地、動植物の生息地など、貴重な自然の残されている民有地を「特別保護区」として指定しています。現在、4か所が指定され、当財団が区やボランティア団体と連携して管理・運営を行っています。

4か所のうち、「経堂五丁目特別保護区」「深沢八丁目無原罪特別保護区」については春と冬に一般開放を行っています。

経堂五丁目特別保護区



春先には、コブシやモクレン、そして区内では珍しいエドヒガンザクラの花が、池の水面を美しく染めます。独特の香りが漂う園内は、植物たちが春を謳歌しているようで、一年でもっとも美しい姿を私たちに見せてくれます。

深沢八丁目無原罪特別保護区



湧水によってできた池を中心に園路が巡らされた回遊式風の庭園が広がっています。その周りを取り巻く緑地空間とともに、四季折々に織り成される鮮やかな自然の移ろいを楽しむことができます。

特別保護区

春の 一般開放

1 経堂五丁目特別保護区 (経堂5-12-13)

コブシやエドヒガンザクラの花々が池を美しく染め上げます。当日はボランティアが保護区の魅力をご案内致します。

2 深沢八丁目無原罪特別保護区 (深沢8-13-16 無原罪聖母宣教女会内)

イロハカエデ、ミズキなどの広葉樹のみずみずしい若葉が心をなごませてくれます。

【日 程】3月26日(土)・27日(日)
4月2日(土)・3日(日)
4月9日(土)・10日(日)

【時 間】午前10時～午後4時

【備 考】どちらも、一般開放日以外は入場できません。

【申 込】不要 当日直接会場へ

3/19「空き家・空き部屋等活用フォーラム」を開催します

平成27年度モデル候補として選定された団体が、空き家等をどう整備し、今後どう活用を行うのか、団体の成果発表を中心に世田谷らしい空き家等の地域貢献活用について考えます。

【対 象】どなたでも

【日 時】3月19日(土)午後1時30分～4時30分

【場 所】北沢タウンホール(北沢2-8-18)12階 スカイサロン

【申 込】不要 当日直接会場へ

【モデルケースの事例】



▲タガヤセ大蔵



▲シェア奥沢

《空き家等地域貢献活用相談窓口》

世田谷トラストまちづくりでは、区内にある空き家等を地域資源と捉え、空き家等の地域貢献活用を目的とした相談窓口業務を世田谷区から受託し、開設しています。地域貢献活用提供いただける空き家等を所有するオーナーと、利用団体とのマッチングに取り組んでいます。

トラまちPress



ひと・まち・自然

Vol.14

2015年12月発行

<http://www.setagayatm.or.jp/>

【発行】一般財団法人 世田谷トラストまちづくり 管理課
〒155-0031 世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
Tel 03-6407-3300 Fax 03-6407-3319



【財団ホームページ】
世田谷トラストまちづくり
<http://www.setagayatm.or.jp/>



【フェイスブック】
世田谷トラストまちづくり トラまち課
<https://www.facebook.com/tm.toramachi>



【ツイッター】
世田谷トラストまちづくり
https://twitter.com/setagaya_tm

▲【ビジターセンター】成城 4-29-1 ☎ 03-3789-6111 ▲【フラワーランド】瀬田 5-30-1 ☎ 03-3707-7881